

こしえるびと

つむぐストーリー vol.92

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。

一緒に働く仲間を増やしたい

平泉町平泉 鈴木千尋さん

農業機械の操作が楽しくて

初夏の爽やかな風が吹きわたる遊水地内で、産業用マルチローターを操作する鈴木千尋さん。重要な防除時期を迎えた小麦畑で、丁寧に農薬を散布する。

農家に生まれたが、農作業には触れずに育った。高校卒業後は一関市内の企業に勤務。本格的な農業経験は、友人に勧められて行くようになった農事組合法人アグリ平泉のアルバイトから。内容は草刈りやネギの出荷調整だったが、農業機械の操作が楽しく、作業に夢中になった。約3年間のアルバイトを経て2019年に同法人に就職。主に防除機械の操作を担当している。

病害虫防除は大事な作業

農業は種をまき収穫し、出荷す

るまでの間に多くの管理作業がある。一つ一つ覚えることは多かったが、最初から最後まで農作物の成長を見られることにやりがいを感じている。管理作業の中でも

「病害虫防除は大事な作業」と千尋さん。「病害虫の発生は大きな損害につながる。天候に左右されるが、病害虫が発生しないよう防除しなくてはならない」。農薬散布を行うために必要な産業用無人ヘリコプター、産業用マルチローターの技能認定を取得。水稻の力メムシ防除をはじめ、小麦や大豆などの防除を担当し、遊水地内や中山間地帯の農地で作業する。農薬散布には技術が必要。アグリ平泉の先輩で先に認定取得した佐々木正樹さんの操作を見学し、アドバイスをもらいながら技術向上に努めている。

若い農業仲間を増やしたい

アグリ平泉では今年、「ライス・アートinひらいずみ」を3年ぶりに開催した。消費者との交流を図るイベントで、初めて参加した時は設計図を見ながら測量し、印を付ける作業に当たった。今年は参加者と一緒に田植えを行った。

J A平泉青年部にも加入し、平泉小学校の学習田の田植えや草刈り作業に参加するなど、地域との交流にも意欲を見せる。

「これからもこの仕事を続けていきたい」と力強く話す千尋さん。「楽しい職場にしたい。もっと若い農業者が増えるよう、働きやすい環境をつくりたい」。農業がもっと魅力的になり、多くの仲間が活気づく日を夢見て。農業の明るい未来に思いをはせ、今日も仕事に汗を流す。



PROFILE

鈴木千尋さん (35)

Chihiro Suzuki

平泉町平泉

1986年平泉町生まれ。一関市内の高校を卒業後、工場勤務や造園業を経て2019年農事組合法人アグリ平泉の従業員になる。産業用無人ヘリコプター、産業用マルチローター技能認定を取得。祖母、両親、兄の5人暮らし。

